

東北復興 PSW にゆうす

「東日本大震災災害対策本部」の活動を引き継ぎ発足した「東日本大震災復興支援本部」の活動も2年目に入りました。6月には第49回全国大会・第1回定時総会・第12回学術集会在石川県にて、これまで被災地への支援活動に赴かれた支援者と今もなお現地にて活動を続けている仲間との集い「ほっとミーティング in 金沢」が開催されます。ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。今後も被災地を始めとする東北からの情報発信、全国各地から寄せられる仲間の声などをお届けしながら、私たちは被災地と其処で歩む皆さまに関心を持ち続け、出来ることを探し続けます。一人ひとりが「復興」を実感できるその日まで…。共に労いあい、共に喜びを分かち合えるその日まで…。



「ほっとミーティング in 大船渡」開催

前号でご紹介した「ほっとミーティング in 石巻」に続き、岩手県の大船渡・陸前高田地区にて同様のミーティングが開催されました。今回はその内容を中心にお届けします。



東北六魂祭
H25. 6. 1~2
福島市にて
開催!!

2013年3月19日(火)、大船渡・陸前高田地域の精神科医療機関、地域活動支援センター、就労支援事業所、そして心のケアセンターを現場とされるPSWの皆様9名と集うことが叶いました。さらに四国と同じ面積という岩手県の遠路を厭わず県P副会長さんにも駆けつけていただき、復興支援本部からは、岩手県支部長でもある品川、小関(本部長代行)、木太(副本部長兼事務局長)、田村(協会副会長)が参上させていただきました。現状のご説明をいただいたり、震災津波の発生時にどのような動きをされたのかなどをお聞きしました。そして、この地域で自死されたPSWがいらっしゃることの痛みを覚えつつも、ネットワークを大切にしながら日々のお仕事をしていらっしゃることが伝わってきました。決して、大上段に構えるのではなく、寄り添うこと、傾聴することをひたすら実践していらっしゃる姿に学ぶものが多かったです。以下に内容の幾つかを御紹介します。

- これが終わりではなく、ほっとミーティングの始まり
- 地元の話をお聴きいただき、日本協会の活動に活かしていただけると地元のスタッフとしてはありがたい。自分だけが頑張らなければならないことにならないようにしていきたい。
- 大船渡ではうつの一次スクリーニングからうつの二次スクリーニングを80件ほど行っている。
- 同じ沿岸部でも地域によって問題が違う。解決までの道が大変。
- 復興を機に活動が盛んになってきた部分もあるが、外部団体が引き揚げてきているところでどうしようかと思案している活動もある。長く見守ってもらえる支援があるとありがたい。
- 被災をきっかけに支援センター等に通っていた人が通わなくなったということが目立つ。
- 仮設とみなしの仮設の違いが歴然。みなしには物資が届かない。
- 当初、病院が避難所として急きょ機能することとなった。
- 認知症の対応要請が多かったが、統合失調症等の対応依頼は多くなかった。
- ストレスで健康を崩している人がいるはずなのだが、なかなか精神科にはつながらない。待っているだけではなくじかに接していく必要性を感じている。1年たつて相談に来る人たちも。～現地に来てみると、やはり分からないでいたことが多く、「全国に発信したい」「全国の会員に関心を持ち続けることが大切」と改めて強く感じました。次回は福島での開催を予定しております。～

前回紹介しきれなかった九州沖縄ブロックの方々からの心温まるメッセージをお届けします。

☆マークは県花のイラストです☆ 宮崎(はまゆう) 沖縄(デイゴ)

☆宮崎県支部長 浅岡悦子



語り継ごう、この気持ち。よく耳にした「あれから〇〇」という言葉をあまり聞かなくなりました。人の気持ちの移り変わりを反映しているのでしょうか？ここ宮崎でも口蹄疫や新燃岳の噴火による災害を経験し、これを教訓として語り継がなければならないと考えた矢先の、東日本大震災でした。被害に遭われた方々のお気持ちを察するには、私は余りにも無力かもしれません。しかし、純粋に「自分にできる事をしたい」という気持ちは、ずっと持ち続けたいし語り継ぎたいと思います。そして、できる事をしていきます。風化させない事が、私たちの使命であり、社会的責務だから…。

(*。^*) 九州沖縄ブロックに続けと、四国ブロックの皆さんからも多くのメッセージが届きました。全てを本紙面にて紹介しきれないほどの量に、編集担当としては嬉しい悲鳴です。そのため…

☆沖縄県支部長 真栄平 勉



沖縄県は震災直後の4月～10月まで県と精神科病院協会の協力のもとに岩手県大船渡市に「こころのケアチーム」を派遣しました。8泊9日の日程で10数チームが現地に入り、お手伝いをさせていただきました。私もゴールデンウィーク期間中に支援活動に従事しました。

現地の惨状に胸を痛めながらも、笑顔で迎え入れてくださった大船渡市の皆様から逆に勇気をいただくことになりました。また、沖縄県にも東北からたくさんの方々が避難しています。慣れない土地でなにかと苦労もあることと思いますが、ソーシャルワーカー4団体で構成する協議会が微力ながらも生活支援に取り組んでいるところです。今後も南国の地から、できるだけ活動を継続していく所存です。

一部については日本精神保健福祉士協会のwebにてご紹介させていただきます。ご了承ください。

 愛媛県 Aさんより：もうすぐ東日本大震災から2年を迎えようとしています。私は2011年6月本協会からの支援として1週間東松島市へ行かせていただきました。大変な状況の中、被災地の皆さんの一丸となった被災者への迅速な対応と判断力に、支援に参加したにもかかわらず多くのことを学ばせていただきました。再び訪れたいと思いつつも行くことができず、愛媛の地で出来ることをと思い、被災地の状況に関心を持ち続け、今出来ること、今後に備えて置くことを実践していきたいと思っています。東北の皆様、愛媛県会員一同できる限りの復興活動に取り組み、応援していきたいと思っています。

☆愛媛県花(みかんの花)

♥～復興支援活動募金報告～♥

2,296,881円 (2012年4月～2013年4月26日現在)
皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。

☎復興支援本部「ほっと phone」

TEL070-6450-2615 小関本部長代行
がお応えします。お寄せいただいた声は、復興支援に生かしてまいります

☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます(個人情報掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部へのFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。E-mail: office@japsw.or.jp

* 題名に「PSWにゆうずについて」とご記入をお願いします。

第5号 2013年5月15日発行

発行：(公社) 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援本部

〒160-0015 東京都新宿区大塚町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

復興支援本部 URL: <http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>